

第2回理科ワーキンググループについて

2015年12月14日に中央教育審議会教育課程部会の理科ワーキンググループが開催された。

15:00から17:00まで文部科学省3階2特別会議室で行われた。

一般傍聴者は外国語ワーキンググループと同じくらいで30名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 理科教育のイメージ及び理科において育成すべき資質・能力について
2. 現行学習指導要領における現状と課題について

まずは、文科省からの総則・評価部会特別部会からの伝達事項があった。

内容については第3回外国語ワーキンググループの時と同様である。

事務局から資料について簡単に説明があり、15:30頃より議題1について議論が始められた。

理科において育成すべき資質・能力について委員から様々なものが挙げられた。

代表的なものは、「科学的な視点から課題を解決する能力」、「他者と関わり共同して問題を解決する能力」、「問題を見出す力」、「論理的に考える力」、「問題を数式やモデルなどで表現する力」、「意思決定・判断力」、「実験・観察のためのスキル」、「わかったことを他者へ伝える表現力」などである。

これらを小学校から高校まで段階的に接続させて育成すべきであるとの考えが概ね共有された。

その他に、学年が上がるにしたがって理科に対する好意的な感情が低下していくという調査資料が示され、現場でもそれを実感しているとの意見もあり、それをなんとかしなければいけないという危機感もひしひしと感じられた。

その解決策として、「科学とは何か」「なぜ科学を学ぶのか」といった内容も指導要領に盛り込んで、理科を学ぶ価値を生徒たちに伝えてほしいとの要望も出された。

また、「問題解決能力」を育成し、実生活への応用を身近に考えるために、現行の指導要領でもすでに「科学と人間生活」や「理科課題研究」などの科目が設置されているが、探究活動のための適切な教科書もあまりなく、現場でもその教科が活用されていないという現実を踏まえ、次期学習指導要領でも理念はよいが実態が伴わないという同じ繰り返し起きないようにすべきだとの意見もあった。

過去の「理科 I」について、必修として全員が広く学べてよかったとする意見と、多様な範囲を扱うので一人の教員では対応しづらく成功しなかった、だから総合科目は慎重になるべきだという意見に評価がわかれた。

主査代理の総括として、意見はかなりバラバラではあるが、科学的な考えをどう教えるかという目的は一緒なので、それをどこに集約していくかが課題だとまとめた。

ここまでで 16:45 頃となり、議題 2 については時間がなくなったために次回へ持ち越しとなった。

次回は 1 月 14 日（木）16:00~18:00 同会議室にて開催の予定である。